



トップエスイー講座シリーズ

# データ社会と法規制シリーズ

河井 理穂子

東洋大学 情報連携学部

## ◆ 本シリーズの目標 ◆

データ社会で活躍するソフトウェア技術者、データサイエンティストの方が、**日米欧の個人データ保護法**と**知財法**の基礎知識を習得し、海外での具体的な裁判事例などを自ら読んで理解を深める

- データ社会において、非常に重要な財となるのが、**個人データ**と**知的財産**
- 米国やEUでは、**個人データ保護法違反で GAFAなどの大企業が莫大な制裁金を課されたり、知財訴訟を起こされるケース**が多く存在

### データ社会とプライバシー保護

- 日米欧個人データ保護法の基礎知識に関する講義
- 日米欧の個人データ保護法に関する裁判例や事例を読む演習

\* 年度により扱う裁判例は変わります \*

### ソフトウェアの保護と著作権

- 日米著作権法の基礎知識に関する講義
- 米国の最新著作権訴訟事例の原資料にあたり、原告側・被告側・判事のグループに分かれ**模擬裁判を実施**

\* 年度により扱う裁判例は変わります \*

# データ社会とプライバシー保護



## ◆EUの個人情報保護法制

- ヨーロッパでは**プライバシー**や**個人データ**が手厚く**人権**として**保障**されてきた
- EU一般データ保護規則**（いわゆる**GDPR**（General Data Protection Regulation））、2018年5月25日施行
  - EU加盟国を含む欧州経済領域（EEA）\***30カ国の法律**

\*欧州経済領域（EEA, European Economic Area）：EU加盟28カ国およびアイスランド、リヒテンシュタイン、ノルウェー（EEA協定による）

## ◆米国の個人情報保護法制

- 連邦取引委員会法（FTC法）第5条**を根拠に保護→非常にユニーク、その他州法でデータ保護
- 連邦取引委員会法（FTC法）第5条(A)(1)**
  - 「商業活動に関わる不公正な競争手段と、商業活動に関わる不公正または欺瞞的な行為または慣行は、違法であることがここに宣言される」（15 U.S.C. §45(A)(1)）
  - 個人や企業の不公正・欺瞞的な行為を、FTCは、「違法」とであると訴えることができる（**FTC法第5条違反**）

# データ社会とプライバシー保護



例えば・・・

## ◆EU諸国でデータ保護法違反で企業に制裁金

- アイルランドの個人情報保護当局であるデータ保護委員会（DPC）は、米国Facebook（現メタ）傘下のWhatsappに対し、総額2億2500万ユーロ（約293億円）の制裁金を科した（2021年9月）
  - ・ ユーザーの個人情報を共有する方法などを、ユーザーに対して適切に通知しなかったことがGDPRに違反する

## ◆FTCによるデータ保護に関する制裁と和解

- ・ Donald Trump氏の選挙運動に関与したCambridge Analytica社に、最大8700万人のFacebookユーザーのデータが不正に流れていた
- ・ 50億ドル（約5400億円）の制裁金が課された
- ・ Facebookは、プライバシー保護策を強化するよう義務付けられた



## ◆Oracle v. Google

- Googleに対し、**Android OS**の開発において**Java APIコード**を**無断でコピー**をしたことが著作権侵害であると**Sun Microsystems（のちにOracleに吸収合併された）**が訴えた。
  - 2016年 連邦地裁判決は、Googleの使用はフェアユースにあたると判断されGoogle勝訴
  - 2018年の連邦巡回控訴裁判決は、一審を覆してOracle勝訴
- 2021年4月の最高裁判決**で、Googleの利用は**フェアユースにあたるとされ**、著作権侵害ではないとされた

# 受講生アンケートから

- 国内外の個人情報保護法について、事例を交えた説明やチームでの演習を通じて理解を深める、かつ興味を持つことができました。 . . . . 引き続き本分野について学習を継続したいと思います。ありがとうございました。
- アメリカの判例を学ぶという趣旨で非常に面白い授業でした。
- 模擬裁判を通してソフトウェア利用やコンテンツ利用についてふかく考えるいいきっかけになりました。
- OSSや他社パッケージを使って新しいシステムを構築する機会が多い中で、 . . . . 法務の立場でソフトウェア開発を考えるきっかけとなりました。
- 実際に裁判を行う一連の流れで著作権、権利、というものの非常に多くのことを理解できたと感じた。 . . . . 実際に自分が裁判の当事者という設定にすることで、事前の準備時間で仲間と議論しながら自分自身で考えることができたことが大きいと思う。